

初学訓

五

			二四二九	和書門
		六五八		
五册	二架	五函	八號	類

庫文閣内			
一九〇函	二四二九	和書	
一六架	五册	八號	類

内閣文庫	
番號	和 24298
冊數	5 (5)
函號	190 363



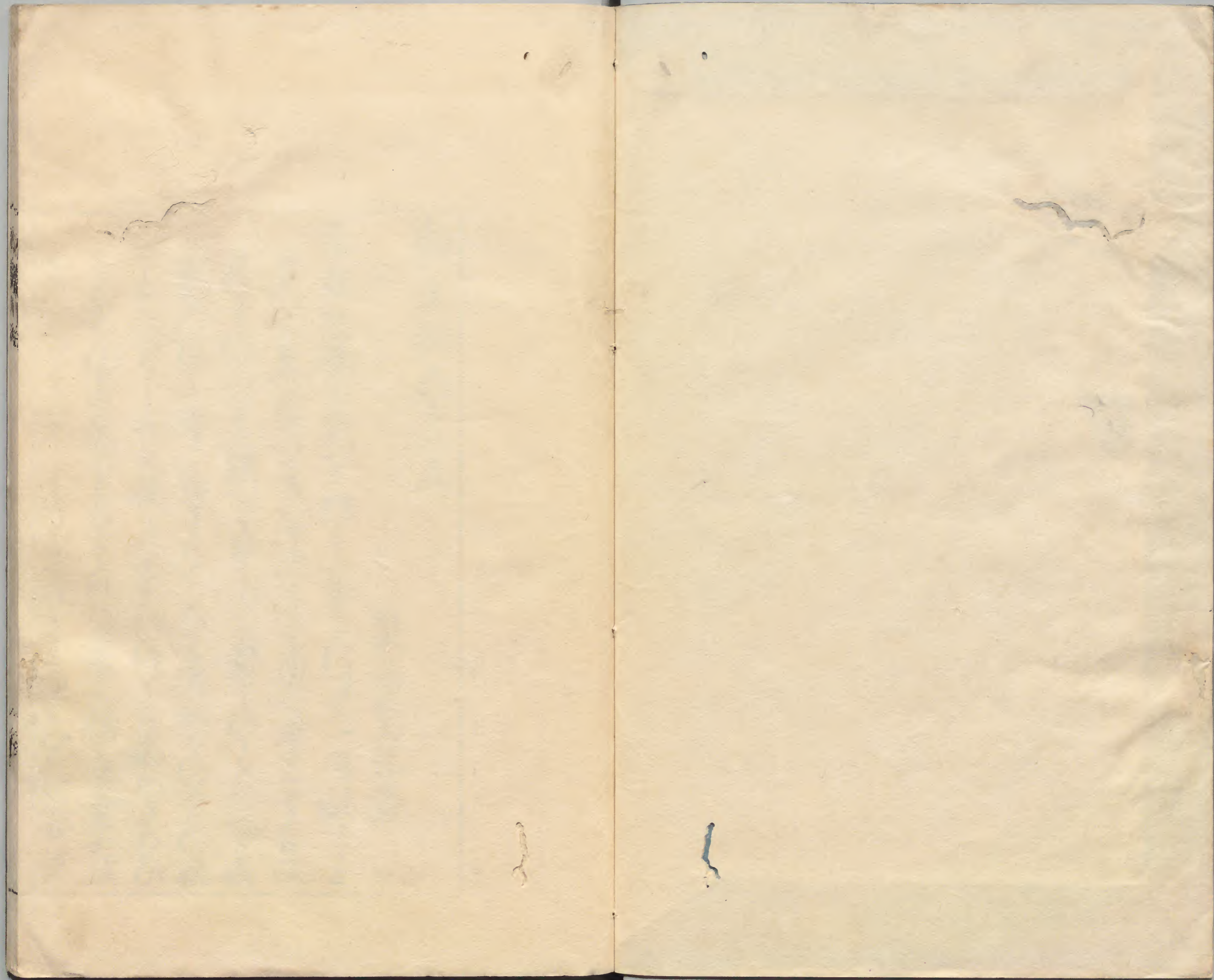
Kodak Gray Scale

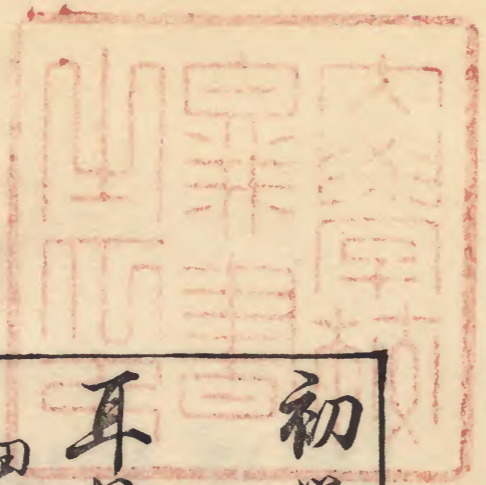
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



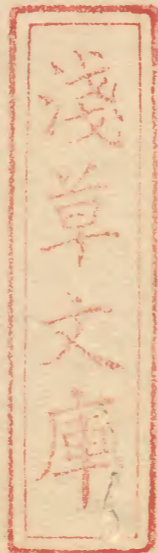




初学割卷之五



貝原篤信著



耳目口腹の欲をゆるいままにて一何候と
思ふと其樂いままにけりる内亦早くうきへ
来る酒食を欲と過して樂いひてさうと其
樂乃内より早くきりりとあるゆくのさうも
すてはなりぬれは快き事ハ終りの必りさうい
とある後の禍をぬきぬれは快き事ハ
求むるは又いりぬれは苦き事ハ必り後

初学割卷之五

五

乃其系^{しやうごん}とわら味^{あじ}した酒^{しゆ}含^{くわ}ん^{ごん}ととせいのちをら
 まら病^{びやう}おころあつと業^{ごう}の^ごあつと業^{ごう}と
 走^{はし}の必^{かならず}後の病^{びやう}去^いて身^みの益^{えき}とならるぬ
 養生^{じやうじやう}の道^{みち}も亦^{また}よくけし^て慾^ごと^ごゆるゆらぬ
 あり養生^{じやうじやう}の要^{かならず}の飲^{いん}食^{じき}色^{しき}慾^ごは^はく^くえて^てこ
 以^も心^{こころ}と和^わも^も氣^きと^と平^{へい}く^くあ^あく^く好^{こう}と^とい^いる^る
 走^{はし}の思^しひと^とす^すこ^こは^は又^{また}風^{かぜ}を^を暑^{あつ}濕^{しつ}乃^{すなはち}外^{がい}邪^{じや}と
 防^{ぼう}く^くて^て飲^{いん}食^{じき}色^{しき}慾^ごは^は肉^{にく}慾^ご也^{なり}風^{かぜ}を^を暑^{あつ}濕^{しつ}は^は外^{がい}邪^{じや}と
 邪^{じや}也^{なり}つ^つた^た人^{ひと}も^も肉^{にく}慾^ごと^と色^{しき}外^{がい}邪^{じや}も^もな^なら^らず

るれい病^{びやう}よ^よお^おろ^ろれて^て長^{なが}生^{せい}延^{えん}得^{とく}に^に又^{また}生^{せい}れ^れつ^つ
 よ^よい^いた^たれ^れと^とよく^{よく}保^ほ存^{ぞん}と^とれ^れい^い天^{てん}年^{ねん}と^とな^なら^らず^ず長^{なが}
 寿^{じゆ}也^{なり}つ^つた^た人^{ひと}も^も早^{はや}く^く養^{やう}生^{せい}延^{えん}つ^つと^とし^して^てつ^つく^く
 血^{けつ}氣^きさ^さん^んあ^あれ^れい^い飲^{いん}食^{じき}色^{しき}慾^ごは^はい^いま^ま也^{なり}い^いま^まは^は
 し^して^て飲^{いん}食^{じき}色^{しき}慾^ごと^とけ^けい^いま^まに^にと^とれ^れい^い元^{げん}氣^きは^は
 こ^ころ^ろ短^{たん}命^{めい}也^{なり}中^{ちゆう}年^{ねん}は^はい^い色^{しき}慾^ごより^{より}飲^{いん}食^{じき}の^の慾^ご
 尤^{なほ}も^もえ^えろ^ろて^て内^{ない}慾^ごも^も中^{ちゆう}く^くま^まて^て元^{げん}氣^きを^をま^まい^い
 外^{がい}邪^{じや}も^もお^おろ^ろ中^{ちゆう}く^く病^{びやう}お^おろ^ろや^やま^まく^く人^{ひと}の^の天^{てん}年^{ねん}
 と^と多^たく^くな^なら^らず^ず早^{はや}く^く死^しわ^わら^らい^い多^たく^くい^い飲^{いん}食^{じき}色^{しき}

歎の二又やうなるれいなり九世生の術を細
 かり事の方書に多くのせりといふと其
 大要のわくのそくをみるに色々の
 公の志のつちなる下さいくつらうの志のつちなるれい
 ゆらう也志のつちなるれい公の志のつちなるれい道理
 とはらうのわくつらうの志のつちなるれい
 と止氷の志のつちなるれいゆらうの志のつちなるれい
 慮のつちなるれい清の志のつちなるれい
 意のつちなるれい

くのあてて見事にいまよの法々れいなる事
 笑くるに迷ひやとく人よ欺り進身の禍人此
 憂と志のつちなるれい久きと考人と先見の明を
 し公の志のつちなるれいと思案とこの思案は
 かくして事の是非と後の禍を考らうと
 美事と行ふ待といふ字を用ゆる待は
 急ちうさる事はいさうして公の志のつちなるれい思
 案と行ふと公の志のつちなるれい
 美事と行ふといふと公の志のつちなるれい

此のあやまりのつり程子も事以急オラ而敗ル者十
常以七八といひり待ての急ありさるるの詳
あていそろはよくお案する故りよおこりい
はうせはして急あるるをといそろはつりなく
るくいあ〜

右の君子の朝夕只天道の眼前よあるるの故
あてはひよよんも事をおそれけ〜して
天よそむるに今の人の天道のさうらふを
るつりつり身よあつりさあつりといひあ

天とあさひたそむきそれとりのを以て
とねいかりつひいてやめと是天道とあさ
ひきそれとる也凡の人の天のあさひと
處乃りのを故きよ〜して天にそひて天
のあさひと終つる人物を世を〜して天
しめあさつる天よろひくかり天地の子
とては〜するなるいあ〜は是父母の命
ろ〜してつる〜つる〜天道よ〜者
かな也天道也〜

尚書云若以之天より百の祥とくさし
 不善とせれば百乃禍致くさし終つていつり
 又若愚のむくひ教の形よあてらるひ言れ音
 一慈とありやく必其志くさし有りすと聖
 人となれば又天道の善く福く淫くつさ
 づいともいつり天より善人よいさいついとい
 へん悪人よいつさづいといふちり易くさ
 積善の家よは必餘美あり積不善の家よ
 必餘殃ありといつり久しく善人つちる家

よはさいふ多く久しく悪人つちる家は
 いつりい多くといふ意也是天道乃常理
 なる事と從ふ是皆聖人のをくえあれ
 ばいつはくろく多くいあるくは必其志くさし
 ともいつり久しく又古語よ天道の好還也
 つり天道の善人よさいいつい一悪人といつさ
 りい一終つ道理よて善人よもい必其報
 をこのそ終つと久くとつと好むといつり
 善人よの福をある悪人よの禍をくある

切律川

四

若愚に天^{てん}道より其^こ返^{へん}報^{ほう}とくご^ご終^{しゆう}ん
 天道の廣大ありてみづくに其志終^{しゆう}んあけ
 とほい必^{かならず}しむいあり天道のおろろく^くあ
 りたろ人の^し理^りとあ^らは^して天道とあ^らは^しれ
 とて愚^ぐに^らりて若^わに^らり志^しの^ちあ^らは^して愚^ぐ
 終^{しゆう}んても只^{ただ}神^{しん}佛^{ぶつ}よ^うは^しむい^いの^りてさ^し
 らいと求^{もと}め^らしむいと^のま^んと^すむあ^ん
 人^{ひと}の^よく^あら^はし^むと^く人^{ひと}の^{うち}も^もあ^らは^し
 うみ私^{わたし}す^くち^らん^ん正^{せい}直^{ちく}あ^らん^ん人^{ひと}の^あら^はし^む

求^{もと}め^らしむ^らこの^まに^に理^りと^まけ^て人^{ひと}の^あら^はし^む
 や神^{しん}の^ち明^{めい}正^{せい}直^{ちく}あ^らし^む私^{わたし}を^あら^はし^む人^{ひと}
 の^あら^はし^む若^わに^らり^して^し只^{ただ}を^あら^はし^む
 考^{かう}し^む私^{わたし}と^あら^はし^むと^あら^はし^むと^あら^はし^む
 し^し終^{しゆう}ん^んや^はし^む理^り明^{めい}と^あら^はし^むと^あら^はし^む
 若^わに^らり^し神^{しん}の^ち非^ひ禮^{れい}と^あら^はし^むと^あら^はし^む
 並^{なら}ぶ^られ^る人^{ひと}の^あら^はし^むと^あら^はし^むと^あら^はし^む
 と^あら^はし^むと^あら^はし^むと^あら^はし^むと^あら^はし^む
 と^あら^はし^むと^あら^はし^むと^あら^はし^むと^あら^はし^む

初學訓

五

神やほりた又曰わやまりのあつの中こそ
あつのなほくは何いのもんとよみ給り
け二首の道理を極まりあつへつに九け
理をれりつ明りあつていつなるを字を
人々知中とよまても九まの道理に
く利欲少くま故苦悩のい急給せされ
天道にういさいといわつてつさつに
理とあつに只欲を非禮のまらぬつて神
佛よるつといのり又権勢あつ人よるつとい

求めく財祿をばんとはされと天道神明よ
の私をばつていなるつてつて福とあつ給り
とがあらぬゆへに給りとあつらふ人の其
志給りたるの今日のみ人にあつたると又
非禮をみて神よりの人よるつとい求め
福祿と得る者まればありつて給り生れ付
くるといといの内をばつてあつとい求
めて給りよるあつらふ百人よ一人もあ
らひ求めく其生れ付るといといとあ

若われの愚人はつ終よはよいてるつゝ人は故
ゆゑりてを得そこらいてるつゝいひて悪は
ては理とあつたれいなり

お人の神よいのりしに君父のふあふのり又まの
わやまりと改め若ふつらまをいへ後あり
敬わり其と禮をくしとまらるゝと西神
いのりしに其福はくけり理もあつて禮もあ
つら神よき神よるつゝいれわはれ
つゝわらうとつゝとまらる神よき社祓禊禊と

云^{禊禊}禊の福^{たひ}あつたり家とあつて神よあつ
たれいれりても利生たつとらりつゝの君はつ
うとつと他乃君よつゝつゝあつたはつゝい
ていのるまき神よいのりしに其志つゝあつるん道
ちとつて新くは神の非禮とつげむいされいれり
とも志つてあつたつ

おまを人と生れていそつたはひまていそあはれも
まていそも只わらういそまうとつて^{かん}禊禊
のら身にあつたつとつて人のつゝまは

あつれと死んくこ人のくぢりて然るをけ
 ねよ一はのみ見とみく志くす一陰
 徳といふの中は若くもらて人よ志
 まんりすと求りたるを云九若く人の道
 いう名あてゆる人病者うこまあるものを食
 る人をもたけ鑑察察孤獨獨のふりあれた人
 をあつれとけし一をく素られたと鑑と
 云むくまされたと察と云いけあて
 又されたと孤と云むく子されたと獨と云け

四乃ものハ害よハ人あて飢寒とるもの
 されハ困窮困窮する民かりにをけりて人とと
 くよハ先此等れ人とあれたよす一とれ又
 つ中とつともまれと同一く天地のみされ
 えりの同胞同胞の内不きたる人也かわつれむ
 一すして人れら利あつるすとあ一と害
 わる事とのそ一一人乃害よかり事と
 知れく志ひてうれすすうにけりて
 樂しけんとして人とらけむつてけりあ

より道を行く人一人の心は世にまんと
 て多くの人民をくねりし見大なる不仁
 かりとされしなり樂しむる民とぞのみ
 樂しむる人の心とぞとて人の樂しむ
 とその心とて
 人と才徳をあるとて人として威勢とわく
 そよなる人乃才ある故をねむるも
 をのこるんとて人をまよへて我のこるん
 とすなり故をけりて人とぞとて人を

うこちの物と中なる不仁と云はる

道にまよひし者故にいと貴くしては
 こそ者故にあつては又なりそある人を
 そはつて人故にそよとて即ち
 終り也人れ才あり若しはあつてもは
 わげそよなりあつてはそよとて
 人とそよとて人とぞとて不仁なる人の才
 終りある故をひりつてとてとて
 不義也鄙狹とてとて

允也。仁政をもちし身の言はれし事。人志實
あて人の志んをと求りて言はれし事。仁
くひの言ひもひあんとを福とせらる。これ
徳あり法徳と行ふ事。わくの事。仁に
しけし言はれし事。仁にありて。豈を
わくし。仁人や後漢の明帝。其弟東平王
よ同く汝家よ居く。仁ををり。樂くする。や
との言ひ。仁にありて。言はれし事。
家樂と。仁にありて。樂くする。言はれし事。

わくし。仁にありて。樂くする。言はれし事。
わんや匹夫の言も。仁にありて。樂くする。言はれし事。
日よ言はれし事。仁にありて。樂くする。言はれし事。
わくし。仁にありて。樂くする。言はれし事。
わくし。仁にありて。樂くする。言はれし事。
わくし。仁にありて。樂くする。言はれし事。
わくし。仁にありて。樂くする。言はれし事。
わくし。仁にありて。樂くする。言はれし事。
わくし。仁にありて。樂くする。言はれし事。
わくし。仁にありて。樂くする。言はれし事。

かしこくもくは小人の一事を成すの事
 其しむいふは世の志はあつてやうに
 と允旨成す事久しくはせりさされし必
 其志成りわたり人志さるひ天よりこの終り又
 小人の志成りしてしむいふは世の書れ
 とそやちと無と成りしむいふは世の書れ
 むくひわたり天道成りしむいふは世の書れ
 されと又旨成りしむいふは世の書れ人わたり
 り終りしむいふは世の書れ命分りしむいふは世の書れ

生れ付る人も又無成りしむいふは世の書れ
 わりしむいふは世の書れわたりしむいふは世の書れ
 ひと身よじり終りしむいふは世の書れ其一代よじり
 道理の常とす人より終りしむいふは世の書れ
 ひと身よじり終りしむいふは世の書れ何れ
 害りわたりしむいふは世の書れ天道の成りしむいふは世の書れ
 君らる人の目の前の事より終りしむいふは世の書れ
 もやうとせむいふは世の書れ利害成りしむいふは世の書れ
 必報ありしむいふは世の書れ天道の成りしむいふは世の書れ

は生けりる禍福あり是天命令也此二とらるの理
ある事と知るべし一孝と云ふは生れ付けられたる
酒色をかゝいまくはく大食ひ毒物と云ふ
て長命かる人ありそれいよく終て元氣あ
つと人かり孝と云ふはく其人のまこと
りいふたるとして孝の理と云ふ酒色と云
いまくはく大食ひ毒物と云ふはく必病と云
まて短命かる人あり一悪行ひて禍福あり
まことらははし理よはく一のるべし

おや先祖よ吾人おれも子孫あるれい先祖乃吾
乃じくいありおや先祖無んおれも子孫若
人あるい先祖の無れじくいとまある子孫
とらる人若くはひいておや先祖の無れ禍福あり
のそく一

天地の氣物と云ふはくその終て父母なる人
其よりおれあり人倫の天地の子あるい是を
おれと終てあり人のおやの子孫と云ふはく
おれと終てあり人倫と云ふはく氣物

おとれい天地の清公よらんて必さいん
を下し修ふれとく終ちそとまの天地の
由公いんて必りさついと下しあふりそと
へん人のわやのまら子孫いよおしおん
て其恩おびひんそとさひりの子孫
りこたよ老といりみくそと其根と報せん
事とあつらぬ天道の神そと下しこれと
はして只神よなつといのりて福致得福を
のまんとんさねも人偏とおさん生物

うまの天地神明のあつれとあつて天罰の
うれと罪と天よ獲まの獲らあつと聖人
そのまらうとつらふに神を
おびひん人民をおとれい必天のあつとあつて
蓋わりおびひて必蓋とあつと聖人の蓋
かたつとあつてつらひとのまら人の
只智者のよらつらおちとへて愚者のつら
まらとつら

天地の清公よらんて人とあつれと人の愚

をよといひ飢と多しけりさまたせり言とけ
福よ終つ人の必天地のわくまあり神の賜
あり恩人とよこりつる身のさしひとけり
まられ恩よ及つる大なる行徳さく功徳さ
し世の人世裡をまらぬ神徳よあまのくを
つひ又の功徳とせんとあひて民に益あら
るにそくくこれ財とついや一用とよも不
仁ありて人倫とあられまされのつやと財と
かと公用とこの道とも天道神の賜さく

して身は子孫よとよといひを一恩と吉の
書ふ志が近代の語も修する處徳人なまの
わたり見聞するあわさるうかり神と福と
得福をのう終んとあつ福とあつとといひ
そのうけ道をとる人其道をとるに
まらんとつらにあつと其志がしれ福を
あつ福をのうと道といふ人や人の困窮
をわく人乃害公のそらとせつとぬとせ
飢寒とぬとけ鞞寒か孤獨の多人とすとい

徳の言致りたす及つた形残つたはらにや
 けかよひそくけくのきまうとけうして形を
 成じとも思はれ及よつたはかあらん人の思
 と致して言致つてかゝる致つとちとま
 一其ちくことさうくは事多くの人より益
 わりつたの身はれ赤きの一もありはあよ
 身の福くちり同一く財とつちやい用いて
 切徳と思ふとも天道よりなりた人民をど
 くつと無益のゆに用ひまひ世のたうと



けりやてくらて世乃けり念とちるおき
 つて徳ともしりこ一れおのゆとめんち
 よもけ道理をらつととたれともをたゆと
 引よも及びつとつ日の本百年必まこら
 こつめつとつてまのわらに日んまは世間
 の徳人のなきれゆと考へて其益有
 と益あらと致ちる人一凡倍人のなきまに
 して道理よくつとこのまらた利分の換
 得をも志しはあよ言致りて天道り

さるの必天よりこひ人よりこひてけりい
けりさいこひわり無私ゆひて天道にまひ
けり必天より人よりたてけりいありさ
こひたれすとてさるはつひは天道とゆされ
とて久しあなよりさしむ私私ありい
ゆありとあり天の子とてあされまゐる
人とありまたとてあまよりけりち身あり
まひりよりあり身のありありのまひり
て樂とすつひは天道神明のたまはる

つてさるこれいやまはるけりまはるは是る
理よりさるのまはるは損得ともしさるを
おとて人よりけり河よりまはるはてあり
ま友よ迫つてす益ある師友と求めたひ
てらけりけり人よはるけりふるけりさる
けり才智をけり人よはるけり右乃聖人の
道はさるひまらんとゆあり愚あるを乃
まはるけりさるて私私ゆけりふひさるに
をさるけりまら孝と先とて人倫とあり

初學訓

て我々目くはるる力い志さうして吾等以て
おこころは孝ふ人よ益ある事とほて人を好
くは天道をやそれうやまひ身をむねまて
天地の道よ志さういつくせむとくとなれる
者一生乃同つとむしむるはかたさふある
うらむていはいくさうあるうらむていはいくさ
くすゆる天道の必ゆする人くあふる
のうら

享保三戊戌年陽月吉日

益軒貝原先生編述書目

書林柳枝軒藏版

慎思録	六冊	點例	二冊	續和漢名數	三冊
大和俗訓	八冊	家道訓	六冊	文武訓	六冊
初學訓	五冊	樂訓	三冊	日本釋名	三冊
三禮口訣	五冊	鄙事記	八冊	菜譜	三冊
京都めぐり	一冊	大和めぐり	一冊	瀨州めぐり	五冊
續江州めぐり	二冊	吾孀路記 <small>東海道</small>	一冊	木曾路之記	一冊
有馬名所記	一冊	日光名所記	一冊	筑前名寄	二冊
吉野山圖	一冊	嚴島圖	一冊	神祇訓	未刻

和學一步 未刻 扶桑紀勝 未刻 日用良方 未刻

格物餘話 未刻

農業全書 十二冊 和爾雅 九冊 和漢事始 十三冊

諺艸 九冊 孝經釋義便蒙 三冊 同附纂 二冊

享保六辛丑歲

